

|    |                     |                  |
|----|---------------------|------------------|
| 月報 | 日本キリスト改革派<br>横浜中央教会 | 7月号<br>2012年7月8日 |
|----|---------------------|------------------|

## 教会設立 24 周年

立石章三

東京教会の横浜集会は、1978年12月、横浜駅ビルの一室を借りてクリスマス集会を行うことからスタートし、1984年、専任の初代牧師のもとで毎週礼拝を行うようになりました。横浜駅から徒歩5分の小さなビルの1階と2階を借りていました。これが私たちの前身の横浜西口教会で、1988年7月10日に教会設立式を行いました。今年が教会設立24周年です。私は1997年に横浜西口教会に赴任しました。1999年、教会はこの土地を購入して引っ越し、古家で1年間礼拝をしました。会堂建築中は関東学院中学校テンネ礼拝堂を借りて礼拝をしました。現会堂は2001年7月に完成し、横浜中央教会と改名しました。

教会設立20周年時(2008年)の記念事業は牧師館購入と会堂のリフォーム、20周年記念誌の発行でした。それで、来年の25周年にはどんな行事をするかを、企画委員会はもう考え始めていただきたいと思います。音楽伝道集会を来年行うのも良いでしょう。これをクリスマスにするならもう音楽家に打診する必要があるでしょう。

教会学校の分級のためには会堂の増築が必要ですが、経済的に大きなことは30周年(2018年)でないと無理かもしれません。しかし希望をもって祈っていれば新しいヴィジョンが与えられるでしょう。企画委員会には『25周年記念誌』の内容を検討していただきますが、20周年からの5年間をまとめた内容が中心となるでしょう。皆さんの希望、意見を聞いていただきたいと思います。文集にするなら、そろそろ皆さんに原稿執筆を依頼しても良いでしょう。

教会のホームページ、教会案内、特別伝道集会のちらしなど、外部への宣伝方法と手段についてはさらに研究が必要です。電柱看板、天王町駅の常設看板などを研究するのも良いでしょう。表階段のペンキ塗りも来年には必要になります。屋根のペンキ塗りについてはまだしばらくは大丈夫のようです。

私は2019年に定年となります。2、3年前から小田原開拓伝道の夢を描いていましたが、73歳の中條長老と、もうすぐ63歳で体調が最近下降ぎみの私のコンビでは少し難しくなってきました。大会・中会全体での牧師不足のことも考えますと、もっとこの教会に力をつけた上で、後任者にバトンを渡すことを考えねばなりません。そのためには、**C**長老、**M**長老の次の長老を育てねばなりません。

横浜中央教会の大会的・中会的責任についても、25周年から30周年に向かって、すなわち壮年期における責任を考えねばなりません。執事会は東部中会連合執事会の当番教会の役割がそろそろ回って来そうです。この仕事をすることによって、東部中会全体を見渡す視野が与えられ、一層成長することでしょう。各教会執事会の代表は準議員となって中会に出席することができます。議決権はありませんが、発言権はあります。また中会の諸委員会には執事も選出されますから、指命されたら積極的に応じていただきたいと思います。中会の委員会ですでに執事が委員に入っているのは、教育委員会、財務委員会、まじわり誌委員会ですが、社会問題委員会、執事活動委員会にも今後は要請があるでしょう。

婦人会は2014年に東部中会婦人会の当番教会となります。当番教会とはその年の年間計画を決め、総会と修養会を企画し、各教会婦人会から会費を徴収する仕事です。すでに2014年の大綱を決めつつありますが、総会や修養会に出席して、運営方法について学んでいただきたいと思います。

神奈川地区の活動については、教師会を除くと、例年三つの合同会が行われます。一つは来年3月10日の神奈川伝道協議会です。この運営と司会は私の責任ということになっていますが、会場は青葉台教会です。各教会の役員を中心として、一般信徒も参加し、神奈川県伝道について考えることになっています。皆さんから良い知恵や提言をお願いします。今年行われた伝道協議会のパネル・ディスカッションでは、神奈川地区の一泊信徒修養会や、夜間講座などのアイディアが出ていたのですが、どれ一つ実現していません。どの教会も高齢化の中で元気が出にくい状況にありますから、良い企画があれば神奈川地区全体の底上げになります。

二つ目は夏季合同教会学校キャンプで、例年野島青少年研修センターで一泊二日で行われます。これはもともと横浜教会が行っていた夏季学校に各教会が生徒を参加させていたもので、今年は8月24（金）～25（土）です。現在は綱島教会が責任を負ってくださり、各教会は授業、料理、バーベキュー、分級、説教、遠足など、指定された仕事を引き受けています。

三つ目は「富士栄光墓苑」（富士霊園の中）の管理で、これは神奈川の8教会が加盟教会となっています。私たちの教会は年間管理費を支払うだけで、草刈りなどの清掃奉仕は何一つ行っていません。ほとんど青葉台教会におまかせしています。横浜中央教会の旧会員で納骨されているのは、I家だけですが、今後増えてくれば、墓前礼拝などを行うこともあるでしょう。2003年9月15日に御殿場で一泊修養会を行い、その帰りに墓苑を訪問しました（掲示板に写真があります）。あれからもう10年たちました。そろそろ再訪の時機かもしれません。

## 保育園児に福音を！

H.S

教会内外で、「未だに」耳にする言葉。(未就学児・小学生の子どもたちの集まりに向かって)『幼稚園と小学校のお友達は〇〇…。』その度に「あれ、うちには保育園の子どもがいるのだけどなあ…」と、心の中でいつも思います。もちろん、私は言葉尻を捉えてどうこう申し上げるつもりはありませんが、そこに保育園児が(意識・無意識を問わず)登場しない、別の言い方をすれば存在を忘れられているかに写ってしまう…。そのことをおもんばかっているのです。

皆さんは保育園、あるいは保育園児という響きの中に、どのようなイメージをお持ちでしょうか。家庭に特別な事情のある子、あるいは子どもは保育園に任せっぱなしにしてバリバリ共働きをしている家庭の子…。確かに今もいろいろな事情のあるご家庭のお子さんもいらっしやいます。保育園は”保育に欠ける子どもを預かるための通所施設”として、児童福祉法に規定されています。それ故、”保育に欠ける”様々な状況に対応する義務があるわけです。

一方、最近、小学校にあがる前のお子さんの状況を調査した厚労省の抽出調査では、保育園児が33%(26.2)、幼稚園児が29.4%(25.9)、その他(他の預け場所利用・在宅の児など)が37.7%(47.8)という結果(2009年調査)になりました。※( )内は1999年の調査。「その他」が多いのは、0～3歳の在宅のお子さんが多いため。この調査を4～6歳に絞ると、保育園児は36.8%、幼稚園児は59.6%。別調査によると、末子が乳幼児で、仕事ありの母親の割合は59.2%だそうです。

つまりは、今や3割以上のお子さんが、保育園に通っているということになります。子どもの数の減少が叫ばれて久しいですが、数も比率も保育園児が増えている背景には、環境的にも「子育て力」的にも子育てがますます難しい状況があるという点に加え、何より慢性的な不況や労働条件の悪化などにより、共働きの必然性が高まっているからということが言えると思います。

堅いことをあれこれと書いてしまいました。要は、『保育園児の存在を忘れないで！』と申し上げたいのです。どこの教会も、保育園児やそのご家庭はかなりの少数派のようですね。圧倒的に教会付属は幼稚園であること、経済的な側面、共働き家庭が日曜日は疲れてなかなか教会に足が向かないなど、いくつかの要因はあると思います。しかしいずれにしろ、どの子どもにも、そして子育て中のご家庭にも、等しく福音は開かれているはずです。日本の教会の意識が変わり、「3割強の保育園児(とその家庭)が、現実には教会になかなか来られない」という状況が変わっていくことを期待しているところです。

蛇足ですが、我が家庭は私の病気のこともあり(今は元気になりましたが)、長女は年中から、次女は1歳児クラスから保育園にお世話になってきました。当時F市に転居し、入園の発表で長女・次女が同じ保育園に無事入ることができて安堵したことを昨日の日のように思い出します(…Y市は待機児童が多すぎて、子ども二人が保育園に入れる状況ではとてもありませんでした)。そんな次女も今や年長児クラス。来年は小学生です。とても感慨深いものがあります。計らずも保育園に入れることになりましたが、集団生活の中で思いやりを学んだり、自分のことは自分でやる習慣がついたり、感謝することがとても多いです。